

いしのまき 復興 石巻市復興計画

● 「石巻市復興計画」について

これは、石巻市が平成23年8月に出した「石巻市震災復興基本計画（骨子）」の内容を子ども・若者にできるだけ分かりやすいようにセーブ・ザ・チルドレンが書き直したものです。難しい言葉や、もっとちがう言い方の方が良いなどあれば、スタッフにぜひ教えて下さい！

これのもとになった文章は下のリンク先から見てください。

<http://www.city.ishinomaki.lg.jp/mpsdata/web/7312/03.pdf>

● 目次

1. 復興のために解決しないといけないこと・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
2. 復興の基本的な考え方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
3. 計画を実現するために・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

復興のために解決しないといけないこと

[原案：P1 第1章 震災による被災状況と復興への課題]

- ①②…の横に書いてあることが、震災で起きたことです。
「◆」の横に書いてあることが、これからしないといけないことです。

(1) 地震と津波が来た

- ◆ 住む家がゆれに耐えられるよう対策を進める
- ◆ 津波を防ぐために、漁港・海岸・川の堤防などを見直す
- ◆ 地震を予測したり、津波を予測したりする仕組みを国にお願いする

(2) 震災のあと、すぐの対応が遅れたことと、その原因

①*ライフラインをもとに戻すことが遅れた

- ◆ 災害の時でも強い、短い期間でもとに戻すことができる、ライフライン対策をする

ライフラインとは、
生活をするために絶対必要な電気・ガス・水道・通信・ものを運ぶことなどのことです。



②道路が通れなくなった

- ◆ 災害時でも本庁と総合支所をつなぐ道路・橋などが使えるようにする。

③エネルギー（生活に必要な電気・ガスなど）や食べ物、物を配ることが遅れた

- ◆ 災害などが起きた時のために食べ物などをたくわえておく
- ◆ 災害の時に多くのところと物のやりとりをする約束をしておく
- ◆ 国に、エネルギーを配る仕組みをしっかりと作ってほしいとお願いする

④地盤沈下で、*内水を外に出すことが遅れた、海の近くが冠水した

- ◆ 早く*内水を外に出す、地盤を高くする



内水とは、
国の領域内にある水です。例えば、河川・湖・ダムなど。

⑤ 情報を手に入れるためのものが使えなくなった

- ◆ 停電の時の対応や、移動する時の通信などと、県や市が情報を伝えるための無線を見直す（たとえば、チャイム・放送など）
- ◆ 緊急の時に使える通信の方法をしっかりとつくる

⑥ 本庁と、総合支所間の協力が不十分だった

- ◆ 災害が起きた緊急時の、本庁と総合支所の協力方法などを見直す

⑦ *防災教育が必要

- ◆ 地域の人が自分たちでつくる、防災グループをつくりなおす
- ◆ 防災教育をもっとしっかりとする
- ◆ 防災訓練をする内容を見直す



防災とは、
地震や火事などの災害を防ぐことです。

(3) 避難所を取りまとめることとその後の対応が遅れた

- ◆ 避難所についての対応（はじめの対応、たくわえ、職員の仕組みなど）をはじめから見直す

(4) 暮らしをもとに戻すことが遅れた

- ◆ 生活と住まいを支援する
- ◆ 災害で出たごみの処理を早くする、まわりの環境を整える

(5) 会社・お店・工場をもとに戻すことが遅れた

- ◆ 安全にまた仕事をできるような土台をつくる
- ◆ 被災する前のように戻して、まちに新しい魅力を増やす復興をする
- ◆ しばらくは、仮設のお店や事務所でまた仕事をはじめ
- ◆ 利子がかからないようにお金を貸したり、補助金などの支援方法をひろげる
- ◆ 働く場所をつくるために会社を再開して、宮城県以外の会社に宮城県に来てもらう

(6) *公共施設をつくる場所と、避難所と決められた場所をどうしたらいいか

- ◆ 保育所や学校、病院、*福祉施設をもとに戻す、つくる場所を考え直す
- ◆ 何かあったときに避難する場所として、一般の人の避難所、ビルなどと協力する
- ◆ 色々な災害に対応した避難所を考え直す、それを地域の人にきちんと伝える
- ◆ *医療・*介護が必要な人のための避難所を準備して整える



公共施設とは、

みんなのためにつくられるところ、例えば、学校・病院・図書館・文化施設などです。

福祉とは、

みんなが安定した生活ができるように、受けられるサービスです。

医療・介護とは、

医療：病気やケガをなおす治療

介護：病気などで助けが必要な人を助けることです。

7) 支援・まわりの助けによるまちづくりがはじまった

- ◆ 災害が起こった時にお互いに助け合う仕組みをしっかりとつくる
- ◆ 日本中との交流の輪づくり
- ◆ 長い間、支援してくれる人が必要

(8) 色々な制度が十分じゃない

- ◆ *災害救助法など、いろいろな仕組みをより良くするためのお願いする
- ◆ お金で助けてくれる仕組みをもっと良くするなど、お金の手助けをお願いする

災害救助法とは、
災害のときに、被災した人を守って、
社会を守るための法律です。



(9) 原発事故からはじまった、新しいエネルギーのための国の動き

- ◆ 原子力発電のあり方をもう一度考える
- ◆ 自然エネルギー（自然からとれるエネルギー。太陽や風など）をうまく使う、新しいエネルギーをつくる方法を考える

復興の基本的な考え方

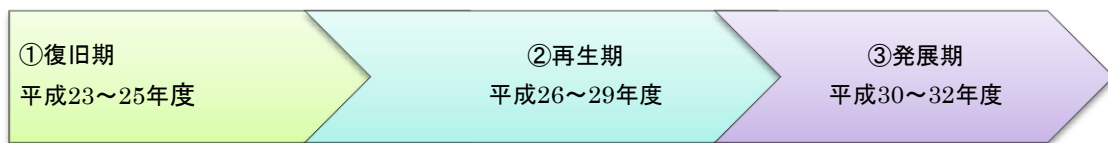
[原案：P5 第2章 復興の基本的な考え方]

1. 復興の基本理念

1. この震災から学んだことを取り入れた、命を守る、災害に強いまちづくり
2. これからの産業のあり方を考えた復興、地域の資源をうまく使った産業の土台づくり
3. 人と人との結びつき「絆」を大切にする、豊かで支えあう地域社会づくり

2. 計画の期間

復興をする期間：10年間（目標：平成32年度）



①復旧期（壊れたものをもとにもどす）

生活や、仕事をまた始めるために必要な住むところ、生活の土台、*インフラなどをもとに戻して、②③の期間への準備を進める期間

②再生期（回復する）

①でもとに戻ったインフラと右巻市の人の力で、震災の前のいきいきとした力を取り戻して、地域をもっと良いものにする期間

③発展期（もっとよく良くする）

新しい魅力といきいきとした力であふれる場所として生まれ変わり、盛り上がっていく期間



インフラとは、
上下水道や道路などみんなの生活に必要な設備
のことです。

3. 復興の役割

石巻市の人ひとりひとりで、石巻市の人々、行政（国・県・市）、一般の団体（会社・NPO・そのほかのグループなど）が協力して復興に向けて取り組んでいきます。

4. この計画で復興をする場所

石巻市の全部の地域です。早くもどのように戻すことを目指す地域と、特に大きな被害のあった地域は、新しいまちをつくる復興を目指す地域とします。

5. 土地を使うときの考え方

1 安全で安心して住めるところ・働くところをつくる

これから予想できる大津波から命や大切なものを守るために、土地の使い方を変えます。まちなかでは、防潮堤や堤防、土を盛って高いところにつくった道路などを作ってまちを守る方法を整えます。そして、人が住むところや公共施設は、内側につくりなおすなど、土地の使い方を変えます。

- 旧市街地では、住む人の考えを取り入れながら、*土地区画整理事業やまちの中心部を新しく開発する事業など、住みやすく避難しやすい、安全で安心なまちづくりを進めていきます。
- 半島部などの集落では、住む人の考えを取り入れながら、津波のこない安全な高いところに住む場所を変えるよう進めていきます。
- 土地が低くなって満潮の時に土地が水につかることが大きな問題になっている地域は、防潮堤を整えます。そして、水を外に出せる施設を整えていきます。



土地区画整理事業とは、道路、公園、河川などをもっといいものにして、土地の分け方を整えて、住むための土地をもっと使ってもらおうという、国の事業です。

2 安全な避難所を手に入れることと、避難する道の準備

災害時に、石巻市のどこにいても安全に避難できるように、避難所の見直しや避難ビルを準備して整えることによって、安全な避難場所をしっかりと用意します。そして、避難するときに助けがいる人もすぐ避難できるように、避難する道を整えます。

3 災害に強い道路ネットワーク・緊急時にものを運ぶ仕組みを用意する

災害時にすぐに人を助けることができるように、重要な道路を整えていきます。そして、半島部では津波や高潮がこない高いところに、大事な道路を整えます。そうすることで、道路が使えるようにして、緊急時にものを運べるようにしていきます。

6. 復興のためにすることのおおまかな内容

1 みんなでつくる、災害に強いまちづくり

1 災害からまちを守る新しい仕組みをつくる

津波からの避難の基本は、できるだけ安全な場所に、できる限り早く逃げることです。

- 災害情報を伝える仕組みや避難場所を見直します。
- 避難するための道や避難サインを整えて、これまでの防災計画を見直します。
- 二度と同じ間違いをしないために、今回の津波の恐ろしさを子どもや孫に伝えていきます。
- 自分や家族1人1人が今回の震災のことを考えて、命を守るために避難する場所や避難するための道をいつも確認できる仕組みをつくりまします。

2 地域力でみんなで守る

- 地域、NPO、企業、行政が協力して命を守るため、災害のときに助ける方法や、防災教育を強化します。そうすることで、社会全体で守れるように仕組みを変えていきます。
- 災害から弱い人を助ける仕組みづくり以外に、会社でも、働いている人を守る仕組みをつくったり、原材料などによって被害が大きくなることを防ぐこと、災害の時に会社どうしが助け合って早く復旧できる仕組みをつくることによって災害に強い会社づくりを支援します。

3 災害の被害を減らすまちづくり

- 人々がまたもとどおり生活できるようにするために、地域に合わせた災害に強いまちの土台を整えます。
- 色々な方法で津波からの被害を小さくするようにします。
- 太陽光などの新しいエネルギーなどを取り入れて、環境のことも考えた災害に強いまちづくりを進めます。

2 石巻の人の不安を消して、今までの暮らしを取り戻す

1 生活・健康のすばやい支援をすること、福祉・医療をきちんと使えるようにすること

- 被災者にお金や仕事の支援、心のケアをするために、お金などを配る以外に、相談やサポートなどをしていきます。
- 弱い立場の人はもちろん、今は健康に見える人にも、心や体の傷が見えてくることがあります。だから、生きる希望をなくさないようにケアを続けていきます。
- お年寄りや助けの必要な人、障がい者へのサービスをもとに戻す以外に、地域の医療の仕組みを整えます。

2 住むところをつくり直す

- これまでずっと住んでいた家が被災して、たくさんの方が住むところを変えないといけなくなっています。そこで、避難所などから仮設住宅、そこから新しい家へと住むところが変わるそれぞれのときに支援していきます。
- 特に、全てが流されて、お金や仕事がないことなどが理由で住むところを自分で手に入れるのが難しい人たちに、安い家賃で住める復興住宅の準備をすぐ進めます。

3 働く場所をつくり直す

- これまでの暮らしを取り戻すには、働く場所をつくり直すことが大事です。だから、仮設での仕事支援から、本格的に仕事を始められるまでの支援をします。
- 仕事がなくなった人もたくさんいます。だから、短い期間だけでもすぐに働ける場所をつくるようにします。そして、安定して働ける場所をつくるために、仕事をまた始められるように支援したり、他の地域の会社にきてもらえるようにしたりして、新しく働ける場所をつくることも進めます。

4 公共施設をもとに戻すこと

- 流されたり壊れたりして、いつまた使えるかわからない施設もたくさんあります。だから、すぐに公共施設をもとに戻すようにします。また、公共施設を合わせた複合施設をつくったり、一般の会社の資金を使うことなどの方法も取り入れていきます。

5 生活する環境を整える

- 災害で、ゴミがとてたくさん出ました。だから、ゴミを置く場所や残ったゴミを清潔にします。そして、ゴミのリサイクルやエネルギーにかえたりすることなども含めた処理の方法を、宮城県と話し合います。
- 新しいまちづくりを考えて、交通の見直しをして、鉄道、バス、島へ行く船など、住む人が移動する方法をしっかりと用意するようにしていきます

3 自然への畏敬（おそれて大切におもい）、自然とともに生きる

1 海とともに生きる

- 私たちの祖先は、太古の時代から海の恵みを使って生きてきて、海とともに育ちました。だから、海から逃げるのではなく、今までどおりの仕事を復活させるために、石巻漁港と石巻港を早くもとに戻して、会社をもとどりにするための支援をします。

2 川とともに生きる

- 中瀬を含めた昔の北上川については、堤防と一つにまとまったまちづくりを進めます。また、美しい景色を新しい観光に使い、たくさんの人が集まり、楽しみ、買い物ができる市の中心部が変わることを進めます。

3 大地とともに生きる

- 海ぞいにある田んぼの多くが津波につかったので、また耕すことができるように、塩を取り除きます。そして、被害を受けなかった地域の農業を高度にします。それと、被災した農地を、野菜や草花を育てる園芸農業や植物の工場など別のものに変える以外に、新しく農業を支える農家を見つけたり、育てたりしていきます。
- 被災したところの一部を国立公園にすることも考えて、森林が荒れてしまうことを防いで、森林を守っていきます。
- 震災でたくさん出てしまう木材のゴミをうまく使えるように、*木質バイオマスを使う仕組みをつくることに取り組みます。



木質バイオマスとは、
薪や炭など木からできている燃料のことです。

4 地域のもをうまく使う

- 季節の食べもの（たとえば、魚やカキなど新鮮な海のもの）が震災で大変な被害を受けました。だから、ものを売る仕組みをつくりなおして、買ってくれる人に信頼される「石巻ブランド」を復活させます。そして、これまでつくられてきた石巻の食文化を伝えたり、地元でできた野菜や地元の海でとれたものを地元で使うようにします。
- また、地元の食べものを使ったまつり・イベントなどをして、地域を盛り上げます。

4 未来のために伝統・文化を守り、人・新しい仕事を育てる

1 未来の人を育てるために

- 子どもたちのためのいろいろな施設が被災しました。また、公園やグラウンドには仮設住宅がたって、子どもが活動する場所がなくなっています。だから、子どもたちの体と心が健康でいられるように、被災した施設を早くもとに戻し、地域全体で子どもたちを育てます。
- ボランティアの人々や日本・海外との交流も、子どもたちを成長させる力になります。だから、交流や絆の輪を広げて、子どもたちが次の世代を支えられるように、成長していく支援をします。
- 震災で親を亡くした子どもたち、親が仕事をなくした子どもたちへの支援が強く求められています。一般の団体や関係機関と協力して、お金の支援や心の復興の支援をする取り組みを進めていきます。

2 いしのまきの伝統を守るために

- *文化財をはじめ、地域の伝統文化や、人々が続けてきたお祭りなどの、地元への想いを育ててきた文化が被災しました。だから、人々と協力して、もとおりにします。
- また、人々が文化に触れあうチャンスが減っているので、芸術や文化の活動を支援したり、NPOなどと協力したイベントができるように支援したりします。

文化財とは、
文化を伝えるために、国や県・市が決めた大切なもの。石巻には文化財がたくさんあります。例えば、沼津貝塚や持福院観音堂、吉祥寺のイチョウなど。



3 他の地域から会社に来てもらえるようにすることと新しい仕事をつくること

- 仕事をする場所のほとんどが被害を受けました。だから、これから土地をどのように使っていくかという計画をあわせて、他の地域から会社に来てもらえるようにすることを進めていきます。それ以外に、震災からの復興を大きく宣伝しながら、会社が使いやすいように、土地の仕組みを見直します。
- 新しいエネルギーをうまく使い、みんなが協力して新しい技術をつくりだします。そして、ほかの地域と競争できるだけの力を強くするための新しい仕事をつくりだします。

じつげん 計画を実現するために

[原案：P38 第6章 実現に向けて]

ふっこう じつげん ～復興を実現するためのお金と仕組みづくり～

まちづくりのために必要となるたくさんのお金を手に入れる

- 復興にはたくさんのお金が必要です。復興の中心になる堤防や漁港、道路、橋などの事業は国・県が行います。でも、石巻市がしないといけないこともあります。また、その他に、石巻市だけでする事業もあわせて実施していくことを考えると、今あるお金では全然足りません。補助率を大きく上げたり、いろいろな復興事業を行うために自由に使える復興基金をつくらなければ、実現できません。
- 長い間復興事業を実施するために、これから、市がすることや使うお金の仕組みなどを見直して、国・県へお願いをしていきます。

部門ごとの計画をすぐにつくり、計画が進むように管理したり見直したりする

- この計画は、復興のためのおおまかな考えです。だから、これから、部門ごとに詳しい計画をつくらないといけません。その後、計画がきちんと進むように管理して、進み具合を石巻市の人に伝えます。そして、計画を見直さないといけないときは、見直します。

ふっこう じつし 復興事業を実施するための仕組みづくり

- 形のあるもの（道路や漁港、住まいなど）をもとに戻して整える以外に、目に見えないこと（新しく一緒に地域に住むことになった人とのつながりの助けなど）を整えるなど、やることがぐんと増えることが予想されます。だから、これからも石巻市の復興のために、国・県・市町村から続けて応援してもらう仕組みをお願いしていきます。